

NISHINOMIYA EBISU

西宮 えびす

令和三年 新春号

祝・日本遺産認定

「伊丹諸白」と「灘の生」本下り酒が生んだ銘醸地、伊丹と灘五郷

第一等國全高造醸
酒銘券優最

白麩



JAPAN HERITAGE

日本遺産

謹んで新春のご祝詞を申し上げます

西宮神社宮司 吉井良昭

昨

年は新型コロナウイルスが流行し、外出自粛やマスク着用等感染防止の制約の中で聊か窮屈な生活を強いられました。江戸期には「流行(はやり)正月」というものがあり、時知れず若衆の中から「正月だ」という声とともに訪れ、人々は餅を搗き、仕事を休みました。それは疫病流行を始め何らかのストレスから起こるもので、当社日記の宝暦九年(一七五九)八月三十日条にはこの「はやり正月」について触れています。「俗祝として、家毎に注連飾りや餅搗きなど正月の儀式を行ない、氏子は裏門から参詣した」とあります。神主は何と申す事かと嘆きながら、近国近郷でも行っていると綴っています。この時の発端は分かりませんが、一つの解決策として正月行事を行って、気分一新を図ろうとした人々の気持ちが生かされてきます。昨年のコロナ禍から、今迎える正月を通じて気持ちを切り替えると共に、ウィルスの退散を図って行きたいものです。

当社の鎮座する西宮は、灘五郷の内二つの郷即ち西宮郷と今津郷を有する日本有数の酒造の地です。昨年六月に伊丹から灘五郷にかけての酒造地帯が『伊丹諸白』と「灘の生本」下り酒が生んだ銘醸地、伊丹と灘五郷』として日本遺産に認定されました。室町期には既に「西宮の旨酒」として都では知れ渡っており、江戸期に入ると海に面し港を有するという地理的有利性を活かし、大量輸送の樽廻船を擁して大消費地である江戸に向けて、品質の良い「下り酒」を輸送していました。その一番乗りを競うのが「新酒番船」で、各酒蔵水夫は「一番」の名譽に預かろうと毎年秋の華やかな大行事となっていました。

酒造りは自然からの恵みと産物、そして人の三者の調和が肝要だといわれます。西宮では「宮水」という天からの恵み、「播州米・山田錦」は土からの

産物、そして「丹波杜氏」の確かな手によって醸されてきました。まさにそれは天地人が一体となった産物であり、信仰や文化という豊かな土壌に、絶えざる技術の革新が加わって日々進化を遂げています。また酒造家たちの地域への貢献も忘れてはならないでしょう。特に近代社会の黎明期に於いて、地域へもたらした教育、文化施設や都市基盤の建設等々の多大なる寄与によって、自然と調和した住環境が整い、そこから近代阪神文化が大きく花開きました。

西宮郷の氏神である当社への信仰も厚く、酒造家寄進による境内神池に架かる瑞寶橋、嘉永橋はこのたびの認定構成遺産となっています。えびすさまは福の神、この「福」という漢字の由来は、神前に置かれた台の上にとつぷりに入った酒壺が供えられているさまを表しているといわれます。このことにより神様は悦ばれ、大きな御神徳を発揚されます。これがまさに「福」というわけです。銘醸の地西宮郷からの銘酒が毎日神前に供えられるえびすさまは、日本一の福をお授けになられます。「西宮の旨酒」と世に知れ渡った時期は、まさにえびすさまが七福神の「福の神」として広く信仰されるようになった時期と重なるのも、決して偶然のことではないでしょう。

去る八月には表大門(通称赤門)の保全修理工事が終わり、丹塗りが鮮やかに甦りました。正月十日の恒例の「開門神事」は、丹塗りが一段と映える大扉の開門によって始まり福男が選ばれます。この甦りました表大門を清々しいお気持ちでお通りになられてご参拝下さい。

コロナ禍が一日も早く終息し、穏かな令和三年となることを祈念致します。

正月・十日えびす 新型コロナウイルス感染症予防対策の取り組みについて

例年、正月・十日えびすには大変多くの方にご参拝いただいております。

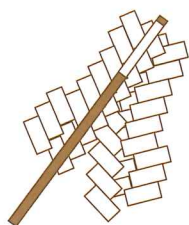
当社ではご参拝の皆様の健康と安全を考慮し、それぞれの施設ごとの感染症防止対策を実施いたします。



【境内における対応】

- 各授与所、窓口に飛沫防止シートを設置し、職員は消毒を徹底してマスク着用にて対応します。
- 境内各所に消毒液を設置し、不特定多数の方が触れるものへの消毒を徹底します。
- 手水舎は閉鎖します。
- 境内末社の鈴緒は取り外します。
- 境内の露店を減らし、参道を広くします。
- 授与所の配置を変更し、滞留場所を広く確保します。
- ご朱印は事前に浄書した紙朱印・御朱印帳を授与いたします。

【ご祈祷の対応】



- 十日えびす3日間のご祈祷の受付場所を神社会館へ移し、ごゆっくりお待ちいただけます。
- 本殿での一度のご祈祷参列人数を半数に減らして密接を防止します。
- 郵送でのご祈祷の申し込みを承っております。

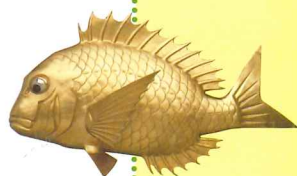
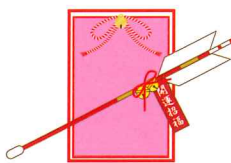
【参拝に関するお願い】

- 初詣（1日～3日）、十日えびす（9日～11日）は混雑が予想されます。福笹や熊手等の縁起物、正月・十日えびす限定の授与品は、1月末まで授与しますので日移しての分散参拝にご協力をお願いいたします。
- 境内ではマスクを着用し、大声での会話はできるだけお控えください。
- スマートフォンをお持ちの方は、接触確認アプリCOCOAのインストールを、また境内では、兵庫県コロナ追跡システムQRコードの読み取りにご協力をお願いいたします。

App Store



Google Play



新しい生活様式で迎える 正月・十日えびす 参拝について

変更・中止事項

【ご祈禱について】

- ◎お茶券の配布・ご利用を停止
- 正月二が日の屠蘇・茶菓子接待
- 十日えびす茶菓子接待
- おかも茶屋での甘酒接待
- ◎祈禱後のお神酒の拝戴を中止
- ◎密集・密接を避けるため、1回のご祈禱参列人数を最大30名までに制限

【正月期間について】

1月1日～3日

- ◎会館での屠蘇・茶菓接待の中止
(※神社会館を閉館)
- ◎境内振舞い酒の中止
- ◎2日、奉射事始祭の中止
- ◎御朱印は事前に浄書した紙朱印授与に変更
- ◎参拝順路を一方通行に変更
- ◎境内露店数を減らし、参拝導線を大きく確保(境外は例年通り出店)



1月末まで
日移しての、分散参拜に
ご協力ください。



【開門神事について】

◎ 本年の開門神事は10日午前0時からの抽選は取止め、事前申し込み抽選(令和2年11月15日～12月15日迄の期間)により当選人数を258名から80名に減らして斎行

◎ 開門神事終了後の福男による鏡開きは中止

◎ 「開門神事参拝証」
(先着5,000名)の授与は中止

【十日えびすについて】

(1月9日～11日)

◎ ご祈祷受付を会館ロビーに変更

◎ 会館での神賑行事中止
(※神社会館にて祈祷受付)

◎ 会館、おかめ茶屋でのお茶券使用を中止

◎ 9日、有馬温泉献湯式、芸妓による拝殿での湯もみを中止

◎ 境内の露店出店を中止(境外は例年通り出店)

◎ 奉納大まぐるに賽銭の貼り付けを中止

※情勢により右記内容を変更する場合がございますのでご了承ください

重要文化財「表大門（赤門）」保存修繕工事竣工

一月十日早朝「開門神事福男選び」が

行われることでも有名な重要文化財表大門の
保存修繕工事が八月に竣工致しました。

今回の工事では、

- ① 丹塗りの塗替え
 - ② 木部の修繕
 - ③ 屋根瓦修繕
- の工事を半年かけて行いました。

①丹塗りの塗替え

建物に付いていた金具を外し、その下の古い塗装や変色の少ない部分の色調を参考に新たに塗る丹の色調（鮮やかな朱色）を決め、細部の彫刻に至るまで全面的に塗替えました。



②木部の修繕



正面右の扉（縦3.7m・横2.4m・重量約250kg）の劣化が進み^{かまち}榫と呼ばれる部位が損傷していたため、扉を分解して損傷した部材を交換、それ以外の部材は全て再利用して従来通りの工法で組み立て、全体を締め直しました。

③屋根瓦修繕

現在の屋根瓦の大半は、昭和56年（1981）の修繕工事で葺き替えられたものであり、破損している瓦を焼き直し交換して、ずれている箇所を一部葺き直しました。



令和3年正月より、えびすさまの大きな福へと招く赤門を意匠した「赤門大福守」を新しく授与します。 ●淡金・紺色 初穂料1000円

竣工清祓式・くぐり初め齋行



八月二十三日、晴天のなか表大門竣工清祓式・くぐり初めを齋行致しました。当日は門前で竣工清祓式を齋行した後、開門神事講社平尾講長の「開門！」の発声とともに開門し、参列者・見学者約二五〇名が新しくなった表大門のくぐり初めを行い、皆様晴々した表情でご参拝されていきました。

社頭のお話

4

『才覚・始末と正直の心』

●平成30年11月10日 中甸祭 社頭講話

十一月二十日にはえびす信仰のうえで重要な誓文祭が行われます。誓文祭はそもそも「商売の方の祭り」で、えびすさまの御恩に感謝、顧客へ感謝のしるしとして大安売り（誓文払）を行なう、店ではえびすさまの神棚の前に鯛を供え、従業員をねぎらうというものです。

商売における誓文払は、江戸時代の、特に上方の商人の間で盛んに行われていました。

江戸時代の上方の商人の、商売道…どのようにしたら富を蓄えられるか、福が訪れるのか。具体的な話をまとめたものが、井原西鶴の著した『日本永代蔵』です。ここには三十編の短い物語が描かれています。その中では富を集める積極的な方策が「才覚」であり、消極的なものが「始末」



『日本永代蔵』に見えるえびす講床の間にえびす様の掛け軸とお供えがあります。



であるとし、その根本にあるのは「正直の心」で、これを失うと、繁栄からあつという間に没落してしまいます。大資産家を「楠木分限」と称してしました。しっかりと根を張り、少々のことでは倒れない。このような強固な基盤を持つ資産家のことをいいます。楠木分限であっても、正直に反するとあつという間に没落の道を辿る。しかし正直は難しいもので、商いと屏風は直では立たぬのことは通り、正直一本では、屏風と同じように倒れてしまう。こ

こが才覚と始末の發揮のしどころとしています。

商人は信仰心が厚い。この『日本永代蔵』の物語から信仰に関わることを抜き出してみると、一番多いのが「えびすさ

ま」に関するお話です。「朝えびす」「えびすの朝茶」「若えびす」「えびす講」などのお話が出てきます。また、三十編の内の一つは、まさに正月十日の西宮神社の「十日えびす」の話を描いています。さらに「えびすの朝茶」の話では、才覚によつて一気に楠木分限となつた者が、その後才覚と始末のしどころを間違え、最も大切な正直の心に反した朝茶の中に茶殻を混ぜて、もう一儲けを企むため、一気に没落した話です。夢のようにはない五十年そこそこの人生なので、どのような商売をしても何とか暮らしている。そこでもう一儲けとばかりに人の道に外れたことをすることは、せっかく人間に生れてきた甲斐がない…と西鶴は書いています。これは今の世でも十分伝えるべき内容ではないでしょうか。

■旬祭参列のご案内

毎月1、10、20日の午前10時から本殿にて、皇室弥栄・国家繁栄等を祈願して旬祭を執り行います。

神饌をお供えし、祝詞奏上や神楽の奉納があります。所要時間は約40分です。その後宮司以下神職が回り持ちで講話を致します。拝殿にご自由にお入りの上ご参列下さい。

※新型コロナウイルス感染拡大防止の為、密を避けて100名に制限して参列いただいております。





福笑い

「福笑い」という遊び、お正月にみんなで賑やかに楽しんだことがある人も多いのではないのでしょうか？

「福笑い」とは、おかめ（おたふく）や、ひよつとこなどの顔の輪郭を描いた紙の上に目、鼻、口といったパーツを散らし、目隠しをした人がそれぞれを正しい位置に並べていくという遊びです。目隠しをしているので出来上がった顔は、それぞれのパーツが位置のずれたおかしい顔立ちになります。その出来上がった滑稽な表情を見て笑い、皆で楽しみます。

「福笑い」の起源はあまり明らかになっておらず、どのような目的で始まったのかも分かっていません。江戸時代後期から遊ばれ始め、明治時代にはお正月の遊びとして定着したようです。お正月に遊ぶという事や、出来上がった顔を見て皆で笑い合うという事から、「笑う門には福来たる」のとわざのように新年の福を祈願したのではないかと推測されます。

「福笑い」は思わず全員が笑顔になるお正月の遊びです。えびすさまのようにニコニコ笑顔になって新年を迎えましょう。



「福笑い」は思わず全員が笑顔になるお正月の遊びです。えびすさまのようにニコニコ笑顔になって新年を迎えましょう。

福にまつわる

ことば

「梅花 五福を開く」



梅は厳しい寒さに耐えて、どの花よりも一番先に咲く花です。そして花弁は五枚です。厳しい困難に耐え忍ぶと、その先には梅花が五弁の花を一番に咲かせるように、五つの福が必ずや授かるでしょう、という意です。

「五福」とは、中国の「書経」からの言葉で人生の五種の幸福のことです。①長寿②豊かな財力③無病息災④天寿を全うする⑤徳を修めるです。

①から④までを見ると、人間が努力しても得られるものはなく、最後は天運に委ねるといふ面があります。

一方⑤は、全くの当人の問題

であり、他人や天運が入るものではありません。

このように見ると、

「五福」という「福」

を得るには天運だけ

では得られず、当

人の不断の努力が

先ずなければ得るこ

とはできないものと言えます。



「商売繁盛！開運招福！黄金のえびすさま展」

西宮神社のえびす信仰資料展示室では、十一月一日～二月二十七日まで第三十二回企画展として「商売繁盛！開運招福！黄金のえびすさま展」を行います。

年末・年始、十日えびすの期間にあたる今回の展示は、金色のえびすさまのご神像やえびすさまグッズなどを展示しております。



光り輝く縁起の良いえびすさまをご覧になつて、皆様明るい新年を迎えられれば幸いです。

また社務所ロビーには西宮に縁のあるシンガーソングライター「あいみょん」さん、落語家でもありタレントでもある「笑福亭鶴瓶」さんにご奉納頂いた絵馬も新たに展示していますのでそちらもご覧下さい。入館料は無料なので参拝の際には是非ともお立ち寄りください。

社務所ロビー



正月・十日えびす郵送祈禱のご案内

新型コロナウイルスの影響

により外出自粛をされている方、ご遠方にお住まいの方など諸事情により正月・十日えびす期間中に参拝の叶わない方には郵送による申込みを承っております。



●郵送でのお申込み方法



正月・十日えびす郵送祈禱の特別お下がり

祈禱料

5,000円

- 郵送特別撤供
- 御神札 (九寸)
- お守り
- 撤饌 (昆布茶)
- 福寿箸 (2膳)



祈禱料

10,000円以上

- 郵送特別撤供
- 特製ミニ福笹 (高さ30cm)



祈禱料

30,000円以上

- 郵送特別撤供
- 特製ミニ福笹 (高さ30cm)
- えべっさんの酒
- えびすそば



祈禱料

100,000円以上

- 郵送特別撤供
- 特製ミニ福笹 (高さ30cm)
- 瓦煎餅 (大)
- 神酒福ボトル



担当：西宮神社祭祀課 TEL:0798-33-0321
 メールアドレス：saigi@nishinomiya-ebisu.com

西宮・伝統芸能の夕べ

写真：浅野 敦



写真：浅野 敦

八月十日、「第一回西宮・伝統芸能の夕べ」と題して、一般財団法人日本伝統芸術文化財団主催のもと真夏の夕闇に浮かぶ拝殿の前で能「羽衣」が奉納されました。新型コロナウイルス感染症拡大防止、また自宅待機を余儀なくされている方々の気持ちがあしでも穏やかになればと全世界ライブ配信も行われました。

今後とも西宮観光「西宮・伝統芸能の夕べ」として毎年さまざまな伝統芸能を奉納していただく予定となっております。

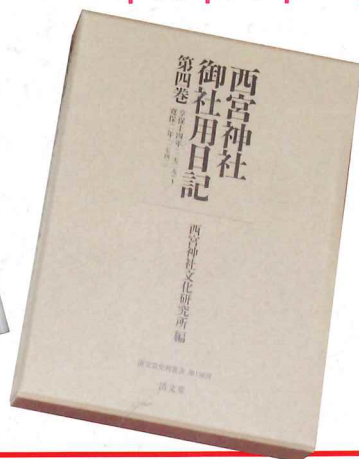
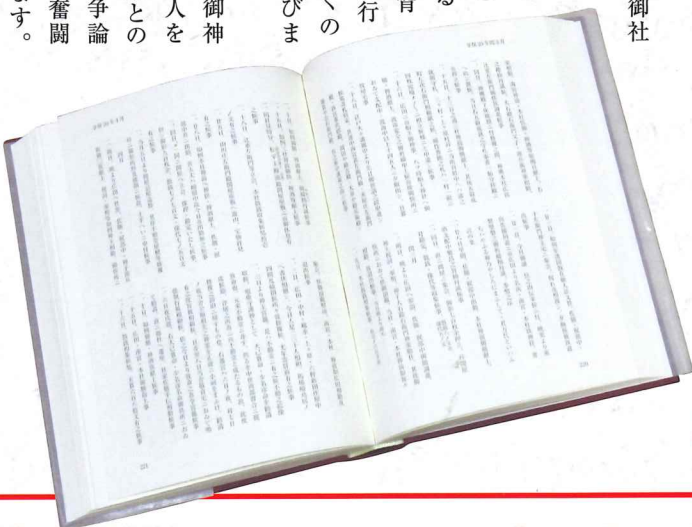
西宮神社

御社用日記

第四卷刊行

このたび「西宮神社御社用日記」第四卷（享保十四年（一七二九）～寛保二年（一七四二））が上梓されました。この時期は門前町である西宮町の経済発展を背景に、西宮神社の年中行事が拡充され、多くの人々が参拝に足を運びました。

一方、関東諸国では御神影札を配るえびす願人をめぐり、京都の吉田家との間で幕府を巻き込む争論が起こり、西宮神主の奮闘の日々が記されています。興味ある方は是非ご読ください。



西宮まつり 報告



本年は新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、奉納演芸会・稚児行列・子ども樽みこし・若戎会だんじり巡行・神輿奉賛講社蒲団神輿巡行等の神賑行事を止む無く中止と致しました。例祭・渡御祭の神事については、全国崇敬者の方々のご参列をご遠慮いただき、神職・神社役員・祭典奉仕者のみでの斎行となりました。規模縮小とはなりませんが、えびすさまを神輿にお乗せし御前浜での海上渡御祭「かざまつり」を無事に斎行できましたことを茲にご報告いたします。

来年は延期となっております、海上渡御祭再興二十年記念事業の和田岬への全船団での渡御祭を斎行する予定となっておりますので、皆様の変わらぬご支援ご協力の程宜しくお願い致します。

春のブライダルフェア

三月十四日(日) 十二時～十七時

ご予約不要

- ◆和装・洋装衣裳展示試着会
- ◆美容相談会(かつら試着体験)
- ◆本殿挙式説明会

厳かに...
華麗に...
あこがれの神前式

宮参り等のご会食も承ります。

西宮神社会館

☎(0798)2313311

info@jinjyakaikan.com

編集室から

この度六月に無形の文化財をストーリーとしてまとめ、魅力を発信する「日本遺産」に「伊丹諸白」と「灘の生一本」下り酒が生んだ銘醸地、伊丹と灘五郷「がめでたく認定されました。日本酒をメインテーマにした日本遺産は全国でも初めてということ、今後益々西宮が日本酒を中心に活気づくことが期待されることですね。

さて皆様ご存じの通り神社と日本酒は昔から関係が深く、当社の嘉永橋瑞宝橋も日本遺産ストーリーの構成文化財に含まれております。嘉永橋は西宮郷の酒造家が施主となり神池からお酒の神様松尾神社への参拝の為に嘉永元年(一八四〇)に掛けられた太鼓橋、瑞宝橋は白鷹醸造元辰馬悦叟氏が明治四十年(一九〇七)に奉納した太鼓橋です。境内には他にも日本酒・酒造家と関わりのあるものがたくさんございますので、いつもと違う視点で境内散策してみてくださいいかがでしょうか。

※表紙の写真は西宮郷白鹿の昭和30年代の日本酒醸造りの風景です。(公益財団法人白鹿記念酒造博物館所蔵)

特設ホームページで西宮神社の最新情報をご覧ください。

西宮神社 公式サイト 検索
https://nishinomiya-ebisu.com



西宮神社 公式サイト QRコード